

横浜市大佛次郎記念館 令和5年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	富岡委員	中村委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
大佛次郎に関する調査・研究を深める Ⅰ文化事業（使命1）	【評価できる点】 ・デジタルアーカイブ公開への構築ができたことを評価したい。大佛文学の内外の研究者・読者の利用を大いに期待したい。  【より一層の取組を期待する点】 ・データベースの整備を長期的に構築してもらいたい。	【評価できる点】 ・「南方ノート・戦後日記」刊行、新デジタルアーカイブへの移行準備と先行公開をはじめとする調査・研究とその成果の公開、展示を見据えた修復実施を高く評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・令和6年度のデジタルアーカイブ公開に向けた準備を進めることを期待します。	【評価できる点】 ・資料の収集、保存、公開が適切に実施されたことを評価します。 ・新デジタルアーカイブへのデータ移行が順調に進められたことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・資料のデジタルデータ化が進んでいる点を評価します。 ・新しいデジタルアーカイブへ向けた作業を推進している点を評価します。 ・所蔵資料と展示やイベントとの連動実績が多数である点を評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・デジタルアーカイブをはじめとする、資料のデジタル化が適切に進むことを期待します。	【評価できる点】 ・「南方ノート・戦後日記」の出版を機に、登場人物関係者へのヒアリングなどで新たな関係を構築したことを評価します。 ・「ポール・ルヌアール没後100年大佛次郎コレクション」展に合わせて、ポール・ルヌアール版画を含む約300点の先行公開に結び付けた点も評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・新データベース移行に向けて、調査研究に活用しやすいデータベースの構築を期待します。
大佛次郎の業績を広く普及する Ⅰ文化事業（使命2）	【評価できる点】 ・『南方ノート・戦後日記』刊行(2023年8月)は各方面で大佛次郎の再評価をうながし大変に意味のある事業であった。  【より一層の取組を期待する点】 ・出版と展示・企画という両輪の展開をさらに期待したい。	【評価できる点】 ・没後50周年記念事業、「南方ノート・戦後日記」刊行、展示の充実、普及連携事業、情報発信、いずれも評価します。 ・来館者数をはじめとする定量指標は、「確実に達成できる数字」よりも「少し背伸びをした数字」を目標として設定することが結果として数の増加につながるという話を他分野の文化施設でも聞いたことがあります。目標達成率88%を理由に次の目標を下方修正するのではなく、高い目標を掲げたからこそ昨年度比1.2倍の観覧者数を達成できたことを、前向きにとらえたいと思います。  【より一層の取組を期待する点】 ・没後50周年記念の事業実施の経験を今後に活かしていくことを期待します。	【評価できる点】 ・「南方ノート・戦後日記」が刊行され、各紙で話題になったことを評価します。 ・「ぼくの伴侶猫と大佛次郎物語」の漫画作品とのコラボ展示等、大佛次郎を知らない人も楽しめる展示が行われたことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・『南方ノート・戦後日記』を出版し、新聞等での話題となった点を評価します。 ・観覧者数について、目標数には達していないものの、昨年度比で増加している点を評価します。 ・没後50年事業として、多数の連携事業が実施させた点を評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・他機関との効果的な連携事業が継続して行われることを期待します。	【評価できる点】 ・30年ぶりの新刊として「南方ノート・戦後日記」を出版したことを高く評価します。 ・観覧者数が昨年度比1・2倍増となり、有料入場者数を増やす方針も奏功した結果、事業収入がコロナ前を上回る実績となったことは評価に値します。  【より一層の取組を期待する点】 ・事業収入などは記念の年の効果としてとどまらず、継続的に収入を確保していけるよう一層の取り組みを期待します。
文学に関する文化に触れる機会を提供する Ⅰ文化事業（使命3）幅広い市民等が	【評価できる点】 ・「大佛次郎×ねこ写真展」が様々な角度から市民とのつながりを継続していることを評価したい。来館者の増加にも寄与していると思われる。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・没後50周年のタイミングで例年以上に幅広い事業を多数展開したことを高く評価します。 ・ビブリオバトル普及委員会 Bibliobattle of the Year 2023 特別賞受賞おめでとうございます。  【より一層の取組を期待する点】 ・様々な取組で得られた知見を今後も活かしつつ、持続可能性をふまえて来年度以降の事業を考えることを期待します。	【評価できる点】 ・「大佛次郎×ねこ写真展」やビブリオバトルといった幅広い年代が参加する企画により大佛次郎館への来訪者が増加したことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・記念講演会に多数の入場者が来場した点を評価します。 ・文学ウォーキングや子供アドベンチャー等に多くの参加者（応募者）が集まった点を評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・今度も多様な体験イベントが企画されることを期待します。	【評価できる点】 ・鎭木清方記念美術館やミナトノアート実行委員会など、文学館と美術の新たなコラボレーション企画を実現させたことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・没後50年記念を機とした取り組みの経験を基に、引き続き新たな切り口やコラボレーションで幅広い市民へのアプローチを期待します。
ネットワーク構築を推進する普及する Ⅰ文化事業（使命5）文学を媒介とした	【評価できる点】 ・神奈川近代文学館、鎭木清方記念館などとの連携事業をはじめ、文学を媒介としたネットワークが充実している点を高く評価したい。大佛次郎という文学者のスケールの大きさを示している。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・没後50周年を契機として多方面と連携し、ネットワーク構築に努力したことを高く評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・具体的な活動の連携は毎年とは限りませんが、今後も適宜情報交換や相互協力を進められるように、今回構築したネットワークを維持していくことを期待します。今後のボランティアの参加も期待します。	【評価できる点】 ・他館やアートプログラムとの連携により、大佛次郎及び大佛次郎記念館の魅力を伝えることが出来たことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】	【評価できる点】 ・再販や新規出版についての働きかけを行っている点を評価します。 ・近隣の小中学校や商店街等と連携した活動が行われている点を評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・著作物の入手が容易になることを期待します。 ・近隣施設や住民との良好な関係が継続することを期待します。	【評価できる点】 ・他館との連携を積極的に行い、関係を構築したことを評価します。特に山口蓬春記念館とは特別展の展示コーナーへの連携を通じて、令和6年度の両館同時のテーマ展に結び付けたことを高く評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・コロナ禍も明けてイベントも再開しており、施設だけでなく幅広い世代を取り込めるイベントなどとも連携してネットワークを構築できるとよいと思います。

横浜市大佛次郎記念館 令和5年度指定管理業務評価シート（外部評価）					
	富岡委員	中村委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
Ⅱ 施設運営（使命4） 市民に文化を中心とした活動の場を提供する	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和室・会議室の利用率の高まりを評価したい。新規利用の工夫も評価したい。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸館利用率の目標設定と達成率を高く評価します。そのほかの定量指標についても、高い目標を掲げたからこそ 2016 年以来最も高い利用料金収入につながったことを前向きにとらえたいと思います。</li> <li>きっかけづくりとして、利用事例のブログ紹介、チラシラック設置、利用者の意見交換会の企画を高く評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者サービスの向上に向けた取組の継続を期待します。</li> <li>撮影利用件数についても、可能な範囲で利用事例をブログ等で紹介できれば、利用促進につながるのではないのでしょうか。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページのリニューアル等により、和室・会議室の利用方法等が分かりやすくなったこと等から利用率が向上し、利用料金収入が指定管理第1期以降最も高くなったことを評価します。</li> </ul> <p>・来館のたびに、施設の細やかな管理が行われていることが感じられました。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も利用者に寄り添った、利便性の向上に向けた方策が図られることを期待します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和室や会議室の稼働率が目標を上回った点を評価します。</li> <li>組織のスキル向上を狙いとした様々な研修が実施された点を評価します。</li> <li>「見やすく・見た目も楽しめる展示」となるような工夫を実施している点を評価します。</li> <li>サロンでの季節感ある装飾が多彩に展開されている点を評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出施設の利用が増加している点について、その要因の分析等が行われることを期待します。</li> <li>施設の魅力が一層高まるような取り組みを期待します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和室・会議室の空き状況確認やブログ紹介などの効果もあり、利用率が目標を上回ったことを評価します。特に会議室は指定期間最終年の目標年を達成できました。</li> <li>新規利用者が増え、利用料金収入が指定管理第一期以降最も高くなったことを評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用手続きも利用しやすいようなシステムを導入し、さらなる施設利用率向上に結び付けることを期待します。</li> </ul>
Ⅲ 施設管理（使命6） 持続可能性を高める施設運営を行う	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来館者の利便性・安全性が確保され、的確な管理・施設運営が継続的になされている現状を評価したい。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記念館の全体的な修繕についての中・長期的なプランを行政と真剣に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会期変更を含めた照明トラブル対応、LED への更新、予防措置を含めた迅速な修繕対応を高く評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>築 40 年以上を経たとのこと、引き続き市と状況を共有しつつ、施設の維持管理をお願いします。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料収入、事業収入、ショップ収入が増加したことを評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後もメディア等で取り上げられる、記念事業に匹敵する展示が企画されることを期待します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小破修繕や建築相談に適切に取り組んでいる点を評価します。</li> <li>ペーパーレス化を推進している点を評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化に対応した適切な管理が行われることを期待します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化に伴い設備不具合も多かったが、早急に対応し、利用者の利便性を確保したことを評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>築40年以上を経過しているため、引き続き横浜市と状況を共有し、展示活動や利用者の利便性を損なわないよう施設の維持管理に努めて下さい。</li> </ul>
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金収入、事業収入、ショップ収入の伸びが様々な企画と館の努力によって実現したことを高く評価したい。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金収入、事業収入、ショップ収入が増加したことを高く評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の超過勤務増については、経験を活かした業務効率化など、改善を期待します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収入が予算を大きく上回ったことを評価します。特に自主事業収入は、予算の 1.5 倍近くになっており、魅力的な企画が功を奏したものと考えます。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修繕費が予算を大きく上回ってしまったことは残念に思いました。経年劣化による修繕費の増加は避けられませんが、今回の経験を基に計画的な修繕が行われることを希望します。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LED 化を進めている点を評価します。</li> <li>光熱水料費が抑えられた点を評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金収入が指定管理者制度導入後に最高額となったほか、事業収入やショップ収入が昨年度と比較して伸び、目標も上回ったことを高く評価します。</li> <li>小破修繕が多く、新刊発行準備で人件費も予算を上回った中、収入増や光熱水費の削減努力で黒字決算を達成したことを評価します。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収入増は記念の年の効果としてとどまらず、継続的に収入を確保していけるよう一層の取り組みを期待します。</li> <li>物価や光熱水費の高騰傾向に引き続き注視し、効率的な運営に努めて下さい。</li> </ul>
総括	大佛次郎の没後 50 年の記念の年にふさわしい多彩な企画や事業が展開され、その文学のネットワークが構築できたこと、来館者の増加など、これまでの様々な努力が実りをもたらしていると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>没後 50 周年において、意欲的な事業展開が数多く見られたことを高く評価します。</li> <li>複数の使命に関連して、来館者への個別聞き取り調査の実施を高く評価します。市民との丁寧なコミュニケーションに今後も期待します。</li> <li>施設の老朽化や職員の超過勤務増など、持続可能な文化施設運営からみた課題については、経験を活かした今後の対応を期待します。</li> </ul>	令和5年度は、没後 50 年の記念の年であり、様々な事業に向けての取り組みが、例年にも増して積極的になされているのが十分に感じられる一年でした。今後も引き続き、大佛次郎及び大佛次郎記念館の魅力を、幅広い年代の多くの人々に伝えて頂きたいと思います。	本年度は、没後 50 年に関連し、多方面に渡る活動が展開されたことを評価します。特別な年度であったことの影響はあると思われますが、次年度に向けても積極的な運営が継続していくことを期待します。	没後 50 年の記念の年にふさわしく、30年ぶりの新刊発行や意欲的なテーマ展示、積極的な連携事業など、充実した内容でした。観覧者数も前年を上回り、事業収入がコロナ前を超える実績となるなど、前進の1年になったと思います。記念の年の一過性に終わらせず、一層の発展を期待しています。

令和5年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価		
I文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明		
【使命1】 大佛次郎に関する調査・研究を深める	1 基礎研究	資料調査	■展示に関連する資料の保存状態の確認と撮影	実施	実施	・特別展、木村荘八展開催のための、書簡等のデジタル化と展示にあたっての翻刻を実施しました ・令和6年度の特別整理期間の方針を定めました	【成果】 ・令和5年度は書籍刊行のため、特別資料整理期間を設けませんでした ・令和6年度の特別整理期間の方針を定めました ・「南方ノート・戦後日記」に登場する人物の関係者へのヒアリングを、著作権継承者の立合いのものと行うなど、出版をきっかけとした新たなつながりをつくることができました。 ・新デジタルアーカイブへのデータ移行は、クラウドサービス（Saas）をカスタマイズした新データベースの分類体系化、既存のデータの流し込みを完了し、データを精査しました。令和6年度4月20日から開始するテーマ展示「ポール・ルヌアール没後100年大佛次郎コレクション」を視野に入れながら新データベースの公開を進め、ポール・ルヌアール版画画像約200点を含む約300点の先行公開することに結びつきました。 ・新デジタルアーカイブへのデータ移行について、新データベースの分類体系化、既存のデータの流し込み・データの精査まで完了できたことは今後の整理に向けて大きな区切りとなりました。  【課題】 ・デジタルアーカイブについては、既存検索システムで公開していたデータは令和6年度中に公開する予定で進めています。一旦公開した後も、データの公開・非公開に関わらず、記念館で所蔵している膨大な資料に優先順位をつけて、データベース上に追加・整備していく作業は、今後も長期間かけて続けていくこととなります。一度に、多くのデータを公開していくことは難しいですが、調査研究に有効に活用できるデータベース構築を行っていきます。  【更なる取組を期待する点】 ・収蔵資料の適切な保存及び公開に継続して取り組むとともに、資料のデータベースの参照のしやすさ等の観点からの収蔵資料の整理を推進していただくことを期待します。 ・出版をきっかけにできた新たな繋がりを今後の事業運営に活かしていくことを期待します。 ・令和6年度に向けたデジタルアーカイブ公開を期待します。	
			■展示に関連する資料のデジタルデータ化	実施	実施			
			■令和6年度の資料調査のための特別休館に向けた準備	実施	実施			
		翻刻	□翻刻資料の展示・出版への活用	5点	42	・出版、展示、選書発行の準備のために、日記、書簡等の翻刻を実施しました		
			■固有名詞や年代等に留意して翻刻	実施	実施			
		分析・研究	■展示に関連した資料の調査研究	実施	実施	・「南方ノート・戦後日記」出版や展示に関連して、国会図書館や、神奈川近代文学館資料室にて調査しました。		
			□他館収蔵資料等の調査	3回	11			
		資料の保存、管理	■I P Mの考え方にのっとり資料保存環境の整備 □特別書庫、書庫、ギャラリー等の点検、記録、調整 □休館日を利用した防塵作業 ■資料は保存箱に収めて分類保管 ■特別書庫内資料の出入庫表への記録 □専門業者による 防塵防黴処理	■I P Mの考え方にのっとり資料保存環境の整備	実施	実施		・点検、記録、清掃等を記載通り実施しました。 ・専門業者による防塵防黴処理は、1/17～22で実施しました。
				□特別書庫、書庫、ギャラリー等の点検、記録、調整	2回/日	2回/日		
				□休館日を利用した防塵作業	1回/月	1回/月		
				■資料は保存箱に収めて分類保管	実施	実施		
				■特別書庫内資料の出入庫表への記録	実施	実施		
				□専門業者による 防塵防黴処理	1回	1回		
		収集、修復	■関係者から情報を聞き取り、記録  □館内資料収集検討会議の開催 ■資料の状態を確認し、修復が必要な資料を把握 ■必要に応じて専門業者に修復を依頼	■関係者から情報を聞き取り、記録	実施	実施		・著作権継承者からの紹介などにより、当時を知る関係者からの大佛次郎に関わるエピソードの聞き取りを行い記録しました。 ・令和6年度（2024年度）テーマ展示に向けて、ルヌアール版画6点の修復を行いました。 ・館内において資料修復検討の会議を行い、令和6年度テーマ展の山口蓬春記念館との協力展示で活用予定の長谷川路可軸の修復を決定しました。
				□館内資料収集検討会議の開催	1回	3回		
				■資料の状態を確認し、修復が必要な資料を把握	実施	実施		
				■必要に応じて専門業者に修復を依頼	実施	実施		
	2 新デジタルアーカイブ構築	分類、体系化	■所蔵資料データの分類、体系化  ■資料の全容把握	■所蔵資料データの分類、体系化	実施	実施		・新データベースの分類体系化は完了し、既存のデータの流し込みも完了しました。 ・令和6年度の公開に向けて、データ整合性のチェックを行いました。
				■資料の全容把握	実施	実施		
		一元化のためのデータ整備	□紙媒体のデジタル化  ■既存データ間の項目を整理し、一元化のためのデータの振り分け  □画像データの追加	□紙媒体のデジタル化	1アイテム	2アイテム		・出版目録（作品目録）を選書の一部からデータ化しました ・出版に関係し、昭和18年から25年までの作品横断ジャンルリストをデータ化しました  ・新データベースの分類体系化は完了し、既存のデータの流し込みも完了しました。 ・令和6年度の公開に向けて、データ整合性のチェックを行いました。  ・ルヌアール版画約300点を新データベースに追加しました ・上記については、令和6年度4月のテーマ展示にあわせて特設ページで公開予定
				■既存データ間の項目を整理し、一元化のためのデータの振り分け	実施	実施		
				□画像データの追加	1カテゴリー	1カテゴリ		
		新デジタルアーカイブへのデータ移行	■移行データの精査（データと実資料の突合、画像の追加） ■新デジタルアーカイブへのデータ移行	■移行データの精査（データと実資料の突合、画像の追加）	実施	実施		・クラウドサービス（Saas）をカスタマイズした新データベースの分類体系化は完了し、既存のデータの流し込みも完了しました。
				■新デジタルアーカイブへのデータ移行	実施	実施		
		新デジタルアーカイブの公開と運用	□現行検索システムに新たなカテゴリーを追加、公開 ■クラウドサービスのカスタマイズ ■画像データを含む所蔵品データを著作権等の観点から精査	□現行検索システムに新たなカテゴリーを追加、公開	1カテゴリー	新DBへ移行のため未実施		・現物との突合を行いデータ精査中。 ・令和6年度4月20日から開始するテーマ展示「ポールルヌアール没後100年大佛次郎コレクション 小さきものへのまなざし」開幕に合わせて、ポール・ルヌアール版画画像260点を含む約300点を先行公開予定。 ・今後、データ精査を進め、令和6年度下半期に約2500点を公開予定。
				■クラウドサービスのカスタマイズ	実施	実施		
				■画像データを含む所蔵品データを著作権等の観点から精査	実施	実施		
			■新デジタルアーカイブへのデータ移行（再掲）  ■オープンデータシステムの継続	■新デジタルアーカイブへのデータ移行（再掲）	実施	実施		・今後、データ精査を進め、令和6年度下半期に約2500点を公開予定。 ・メタデータを活用したオープンデータシステムは、他館との横断検索を念頭に取り組んできましたが、現段階で具体的な活用計画が見えないため、リニューアルHPからは一旦外しました。なお、今後も機能追加は可能なため、計画が具体化した段階で再検討します。
				■オープンデータシステムの継続	実施	実施		

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	3  調 査 研 究 成 果 の 発 信 と 公 開	新デジタルアーカイブを活用した発信	□所蔵資料を展示やイベントと連動して紹介	3回	16回	当館テーマ展示および特別展示のほか <展示> ■神奈川近代文学館 ・ 「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」（4/1～5/28） ・ 大佛次郎「南方ノート」（Cahier I）<1943年11月10日ページを展示> 1点 ・ 「『おまけ』と『ふろく』展」（7/29～9/24） 雑誌ふろく書籍（鞍馬天狗）5点 ・ 「没後50年 大佛次郎展―戦後の仕事―」（12/2～1/21） 原稿など20点以上 ■北九州市立美術館 ・ 「没後50年 松野一夫展」（9/16～11/21） 松野一夫油彩画、「苦楽」挿絵等 ■世田谷区立中央図書館・中央図書館プラネタリウム・世田谷文学館 ・ 「桜新町の野尻抱影 星と文学を愛し、隣人と語らう」（12/22～2/28）での展示用およびプラネタリウムでの上映用として 写真画像2点 ■没後50年記念連携事業 ・ 山口蓬春記念館、横浜にぎわい座（3展示）、横浜市中心図書館、市民ギャラリーあざみ野  <イベント> ・ 横浜キネマ倶楽部上映会「風船」講演（11/18） ・ 【ヨルノヨ・アートプログラム<水の町プロムナード>】トークイベント「獅子文六と大佛次郎の散歩した水町通りの歴史と文化」 (12/13)		
						研究成果物の発表		
		■研究成果物の読者アンケート	実施	実施	・ 出版社による読書カードのほか、記念館での販売分には独自にアンケートを差込み販売中			
		【使命2】 大佛次郎の業績を広く普及する	4  普 及 活 動	所蔵資料の検索	□現行検索システムに新たなカテゴリーを追加、公開（再掲）	1カテゴリー		
■新デジタルアーカイブへのデータ移行（再掲）	実施				実施			
■「おさらぎ選書第1集～11集」および資料目録の閲覧提供、販売	実施				実施			
閲覧	■大佛作品や大佛次郎賞及び大佛次郎論壇賞受賞作、関連図書等を開架で公開			実施	実施	・ 「南方ノート・戦後日記」、令和4年度・5年度の大佛次郎賞および論壇賞受賞作の追加 ・ 特別資料閲覧は個別に対応しました。		
	□閲覧書籍の追加			3点	5点			
	■特別資料の閲覧は総合的に判断			実施	実施			
書籍販売	■書店では入手が難しい書籍を販売			実施	実施	・ 書店では入手が難しい作品を含め、大佛著作、研究書などを販売しました。 ・ 選書やブックレットは当館展示や閲覧室をご覧になった方が購入いただく例がよく見られるほか、出版社や学校等からお問い合わせをいただく事例が見られました		
	■おさらぎ選書やブックレットを販売			実施	実施			
	■文庫本にオリジナルカバーを付ける			実施	実施			
レファレンスサービス	■レファレンスサービスの充実			実施	実施	・ レファレンス48件 ・ 新刊出版があり、「南方ノート・戦後日記」へのレファレンスがしばしば見られた ・ 公式ブログにてレファレンス事例を紹介しました（3/14、24、29）		
	□レファレンス事例をSNS等で発信			3回	3回			
展示解説	□展示解説			1回/月	1回/月	・ 展示解説を計画通り実施 ・ 特別展では、展示解説を担当研究員のトークの形で実施。遠方からの来館者もあり、質問等も活発でした。 ・ 校外学習や団体入館のお客様を対象に、大佛次郎の作品と生涯を説明しました。		
	■団体説明			実施	実施			
	□展示や解説の一部をSNS等で発信			3回	5回			



評価項目		令和５年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明		
【使命２】 大佛次郎の業績を広く普及する	1  刊 行 物	「南方ノートと戦後日記」（仮）の出版	■『南方ノートと戦後日記』（仮）の出版	実施	実施	・「南方ノート・戦後日記」は次のとおり出版しました。 2023年8月30日発行　未知谷刊 大佛次郎　著/大佛次郎記念館　編　解題執筆および監修：河西見祐、斎藤理生、富田暁、源川真希 ・「南方ノート・戦後日記」出版を記念して特別展示を行い、研究員によるトークを実施しました。また、約30年振りの新刊刊行は話題となり、新聞等で取り上げていただきました。 ・選書29集は令和6年度中の出版を計画し、内容の検討を開始しました。	【成果】 ・「南方ノート・戦後日記」（未知谷刊行 大佛次郎記念館編）は、2023年8月に刊行されました。各紙で取り上げられるなど話題となりました。 ・年3本の展示は漫画作品とのコラボレーション、出版特別展示、挿絵画家木村荘八との愛猫家側面にも注目した展示と、「大佛次郎を知らない人が見ても楽しめるもの」「作品を掘り下げ、検証するもの」をバランスよく実施しました。 ・展示は、観覧者目標21,000人（7,000人×3展示）に対し、18,432人、達成率は88％と未達成となりましたが、昨年度に比較すると、約1.2倍の増となりました。また事業収入はコロナ前の令和元年度（2019年度）を超える実績となりました。 ・没後50年記念事業は、ホテルや図書館、市民団体、文化施設等、市内外の様々な場所・団体と連携した事業を実施し、内容も展示、講演会、映画上映、ゆかりの場所へのツアー、落語会等多彩であり、大佛次郎の魅力を広く発信する機会となりました。連携事業全体を通じ約16万人の参加がありました。	
		おさらぎ選書の刊行	■「おさらぎ選書」第29集の準備	実施	実施			【課題】 ・記念の年はメディア等からの注目も高く、本使命である「大佛次郎の認知度を高める」好機である。令和５年度の「没後50年」は新刊刊行とともに展示、没後50年連携事業等、メディアに様々な取り上げていただくことができた。今後、2024年の鞍馬天狗誕生100年、2025年野尻抱影生誕140年、2028年開館50周年と記念の年が続くため、如何に有効な発信を行うかは重要な課題と捉えています。
		大佛次郎記念館ブックレットの刊行	■ブックレットの刊行準備	実施	書籍発行のため実施せず			
	2  テ ー マ 展 示	企画展（テーマ展示・特別展）の開催（年３回） テーマ展示Ⅰ　おさらぎじろう展  会期：4月22日（土）～8月20日（日）	□観覧者数	7,000人	5451人	・令和4年に少年画報社から刊行された漫画『ぼくの伴侶猫と大佛次郎物語』の原稿や、作品の一部をクローズアップしながら、大正・昭和期に活躍した大佛次郎の作品と生涯を、西子夫人や猫たちとのエピソードを添えて、分かりやすく紹介しました。 ・１フロビーでは、１話分まるごとパネルを展示を行い、観覧者がストーリーを追って大佛次郎を理解する工夫を行い、2階テーマ展示への導入としました。 ・関連事業として漫画家によるトークも開催し、作者が大佛次郎について行なった丹念な調査と裏付け、編集側とのやりとり、アナログ原稿の魅力など、漫画制作の裏側とともに大佛次郎の人となりと業績を、エピソードごとに伝えることができました。 ・漫画作品を取り上げた展示は来館者の幅を広げ、多彩な年代の来館がありました。	【更なる取組を期待する点】 ・今年度の観覧者数及び事業収入の増が一過性のものとならないよう、没後50年記念事業において新たに繋がりをもった団体等との今後の展開や記念年に向けた発信に期待します。 ・３本の企画展について、目標と実績の差についての分析を期待します。 ・聞き取りアンケートでいただいたご意見の分析、対応の検討を進めてください。	
			□展示解説	1回/月	1回/月			
			□たてものミニミニトーク	1回/月	1回/月			
			■関連事業	実施	実施			
		特別展　初公開＆出版記念「南方ノート」と「戦後日記」－大佛次郎が見た戦中・戦後  会期：8月29日（火）～12月10日（日）	□観覧者数	7,000人	6964人	・30年ぶりに刊行された大佛次郎の新刊『南方ノート・戦後日記』の出版を記念し、内容を紹介しました。 ・新聞記事（朝日、東京、日経）、読書欄（読売）での紹介記事とも相まって、ほぼ目標通りの来館人数を得ることができました。 ・展示内容は硬派なものでしたが、じっくり時間をかけて観覧している入館者の様子や、サロントーク（全4回、計40名）の様子、そこでの書籍購入の状況などから、大佛次郎の作家活動の出発点としての南方視察と戦後の作家活動のスタートについて、多くの来館者にその意義を伝えることができる展示となったと考えます。		
			□展示解説	1回/月	1回/月			
			□たてものミニミニトーク	1回/月	1回/月			
			■関連事業	実施	実施			
		テーマ展示Ⅱ「大佛次郎と木村荘八」－作家と画家、そして猫  会期：12月16日（土）～2024年4月14日（日）	□観覧者数	7,000人	6017	・『霧笛』や『幻燈』など大佛次郎の開化小説（開港期から文明開化期の横浜を舞台とした小説）に诗情豊かな絵を寄せた、洋画家・木村荘八と大佛次郎との作品や交流を紹介する展示を行いました。 ・昭和初期からの名コンビでお互いを引き立て合っていた大佛次郎と木村荘八の作品を、当館が所蔵する挿絵原画等を展示して紹介しました。 ・ともに愛猫家であった2人の交友の記録も紹介した。同時期に１フロビーで開催した「大佛次郎×ねこ写真展」との相乗効果となり、目標には至りませんでしたが多くの来場につながりました。		
□展示解説			1回/月	1回/月				
□たてものミニミニトーク			1回/月	1回/月				
■関連事業			実施	実施				
3  収 蔵 品 展 等	1階ロビー展示	■年表や写真パネルを展示	実施	実施	■ロビー展示 ・大佛次郎略年譜および作品と生涯を紹介するパネル展示（通年） ・『ぼくの伴侶－猫と大佛次郎物語』一話まるごとパネル展示（4/22～8/20） ・写真パネル展「大佛次郎の撮った戦時下の南方」（8/26～1/8） ・大佛次郎×ねこ写真展2024（1/10～4/14）	【課題】 ・「没後50年」は新刊刊行とともに展示、没後50年連携事業等、メディアに様々な取り上げていただくことができた。今後、2024年の鞍馬天狗誕生100年、2025年野尻抱影生誕140年、2028年開館50周年と記念の年が続くため、如何に有効な発信を行うかは重要な課題と捉えています。	【更なる取組を期待する点】 ・今年度の観覧者数及び事業収入の増が一過性のものとならないよう、没後50年記念事業において新たに繋がりをもった団体等との今後の展開や記念年に向けた発信に期待します。 ・３本の企画展について、目標と実績の差についての分析を期待します。 ・聞き取りアンケートでいただいたご意見の分析、対応の検討を進めてください。	
		■日英併記	実施	実施				
	収蔵品展	■大佛次郎の主要作品とともに、幅広い作品世界を網羅的に紹介	実施	実施	■展示室（収蔵品展） ○書棚特集コーナー ・「激流～渋沢栄一の若き日」（R3.7～R5.7/3） ・「鍋木清方が表紙を描いた雑誌『苦楽』」（R5.7/4～R6.1/8） ・「激流～渋沢栄一の若き日」に戻る（R6/1/10～） ○フランス4部作コーナー ・フランス月間2023「ポール・ルヌアールが見た『ドレフェス事件』」（・6/1～12/24） ○小津安二郎と大佛次郎『宗方姉妹』（3/28～R6.1/8）			
		□収蔵品展内に特集展示コーナー設置	1回	3回				
		■第三共和政時代のフランス社会に関連した資料を活用	実施	実施				

評価項目			令和 5 年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
普及活動		愛蔵品コーナー	□美術品をはじめとする大佛次郎の愛蔵品を紹介	1回	2	■愛蔵品コーナー ・「大佛次郎と長谷川路可ーイタリアに咲いた花」（R3.11/22～R5.9/24） ・「大佛次郎が創刊した雑誌『苦楽』をめぐる画家たち」（R5.9/26～R6.11） ■閲覧室展示 ・R5.3.20～7.2「若き日の信長」 ■その他 ホテルニューグランドコーナー（通年・サロンほ		
	4	基礎研究と展示、刊行物の連動	■『南方ノート・戦後日記』の出版と特別展の連動	実施	実施	・出版を記念する展示として特別展を開催しました。 ・特別展示期間においては、月1回の展示解説を特別トークとして、研究員が「南方ノート・戦後日記」と展示内容について解説しました		
			■研究成果の公開	実施	実施			
	5	所蔵資料の検索	□現行検索システムに新たなカテゴリーを追加、公開(再掲)	1カテゴリー	新DB以降のため実施せず	・クラウドサービス（Saas）をカスタマイズした新DBの分類体系化は完了し、既存のデータの流し込みも完了しました。 ・令和6年度の公開に向けて、現物との突合を行いデータ精査を進めました。令和6年度4月20日から開始するテーマ展示「『ポールルヌアール没後100年大佛次郎コレクション 小さなものへのまなざし』開幕に合わせて、ポール・ルヌアール版画画像約260点を含む約300点を先行公開予定。 またデータ精査を進め、令和6年度下半期に約2500点を公開予定。（再掲）		
			■新デジタルアーカイブへのデータ移行（再掲）	実施	実施			
			■「おさらぎ選書第1集～11集」および資料目録の閲覧提供、販売（再掲）	実施	実施			
		閲覧	■大佛作品や大佛次郎賞及び大佛次郎論壇賞受賞作、関連図書等を開架で公開	実施	実施	・「南方ノート戦後日記」（未知谷刊 大佛次郎記念館編） 大佛次郎賞受賞作 ・星野博美『世界は五反田から始まった』（ゲンロン） ・平山周吉「小津安二郎」（新潮社） 大佛次郎論壇賞受賞作 ・板橋拓己「分断の克服 1989-1990 統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦」（中公選書） ・五十嵐元道「戦争とデータ 死者はいかに数値となったか」（中公選書）		
			□閲覧書籍の追加（再掲）	3点	5点			
		書籍販売	■特別資料の閲覧は総合的に判断（再掲）	実施	実施			
			■書店では入手が難しい書籍を販売（再掲）	実施	実施	・新刊既刊を問わず、記念館が発行する冊子や書店では入手が難しい書籍を販売しました。 ・文庫本にオリジナルカバーを付けて販売し、記念館ならではの付加価値を付けました。		
			■おさらぎ選書やブックレットを販売（再掲）	実施	実施			
		レファレンスサービス	■文庫本にオリジナルカバーを付ける（再掲）	実施	実施			
			■レファレンスサービスの充実（再掲）	実施	実施	記念館公式ブログにて3/14、24、29レファレンス事例を紹介しました（再掲） ・読者、メディア、出版社、研究者など、様々な方に対応しました。		
		展示解説	□レファレンス事例をSNS等で発信（再掲）	3回	5回	・展示解説を計画通り実施 ・特別展では、展示解説を担当研究員のトークの形で実施。遠方からの来館者もあり、質問等も活発でした。 ・校外学習や団体入館のお客様を対象に、大佛次郎の作品と生涯を説明しました。		
			□展示解説（再掲）	1回/月	1回/月			
			■団体説明（再掲）	実施	実施			
			□展示や解説の一部をSNS等で発信（再掲）	3回	5回	特別展の実施（8/29～12/10）		
			■記念事業の実施（初公開＆出版記念特別展ほか）	実施	実施			

評価項目			令和 5 年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
【使命 2】 大佛次郎の業績を広く普及する		没後50年記念事業	■連携事業の実施（パネル展示、観覧料の相互割引、文学散歩などの共催イベント等）	実施	実施	没後50年記念事業 ①ホテルニューグランド 宿泊プラン「横浜を愛した昭和の文豪 大佛次郎 天狗の間 今昔散歩」（ホテルニューグランド） ②横浜ハイカラきもの館 袴で楽しむガーデンネックレス横浜2023「薔薇と不思議ノ國のアリスの世界へ」（4/15-5/31） ③横浜にざわい座 【展示】没後50年記念 長谷川伸とふるさと横浜（4/4-6/30） 【展示】没後50年記念 大佛次郎の愛した落語と猫（9/2-9/30） 【展示】没後50年記念 落語の恩人大佛次郎（2/8-3/24） 【公演】名作落語のタベ 猫尽くしの会（9/15） 【公演】名作落語のタベ 猫尽くしの会（3/2） ④山手111番館ギャラリー「横浜山手に暮らす人々～昭和のはじめ」（4/13-18） ⑤横浜市中央図書館 没後50年記念「大佛次郎展」（4/18-5/14） ⑥放送ライブラリー大佛次郎没後50年記念「大佛次郎の世界」（4/25-7/25） ⑦市民ギャラリーあざみ野「大佛次郎没後50年記念「『猫と大佛次郎物語』（7/20-9/10） ⑧横浜キネマ倶楽部 映画上映 神奈川近代文学館ホール「帰郷」（9/30）（大佛次郎記念館見学あり） 神奈川公会堂「風船」（講演：大佛次郎記念館研究員）（11/18） ⑨鎌倉市錦木清方記念美術館 企画展「大佛次郎没後50年 季節の彩り－清方が描いた美人挿絵」（7/1-9/10） 特別展「清方×文学－紅葉への憧憬、鏡花との友情－」（9/14-10/18）		
			□連携事業の回数	10回	24回	⑩みどりアートパーク 講演「大佛次郎没後50年記念講演会 知られざる大佛次郎の素顔」（10/21） ⑪吉野町市民プラザ 没後50年パネル展「横浜生まれの作家大佛次郎」（11/1-12/24） ⑫神奈川近代文学館「没後50年大佛次郎展 －戦後の仕事－」（12/2-1/21） ⑬山口蓬春記念館「大佛次郎と藤田嗣治」（特別展「山口蓬春と藤田嗣治」内）（2/3-3/31） ⑭岩間市民プラザ「サイレントシネマ&活弁ワールド14」（2/4） ⑮横浜シティガイド協会 ミニ講座&ガイドツアー「大佛次郎の世界～春の横浜散歩～」（3・28、31） ⑯横浜市民ギャラリー発行「画廊散歩」等での大佛次郎館連絡品の紹介（市民ギャラリー蔵） ⑰横浜市民文化会館館内ホール「デジタルサイネージ」等での広報協力		

評価項目			令和５年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	6 広 報 ・ プ ロ モ ー シ ョ ン 活 動 の 推 進	広報活動	■紙媒体と放送による広報	実施	実施	・紙媒体、放送、WEBによる広報を行いました。新刊発行、没後50年が重なり、広くご紹介いただきました。 ・PRTIMESによる情報発信を積極的に行い、目標の2倍以上活用しました。		
			□PRTIMESやイベントバンクを活用し、WEBによる情報発信	5回	21回	情報発信回数 ・イベントバンク 10回 ・PRTIMES 11回		
			□SNS投稿(twitter)	20回/月	49回/月	投稿数582回		
		HPのリニューアル	■リニューアルの実施	実施	実施	1月10日リニューアルサイトオープン 主なリニューアルのポイントとして、①HPの見やすさを重視。特にスマートフォンからの見やすさ改善②申込フォームの充実 ③過去の展示等の閲覧が可能としました。		
		大佛作品を後世に残す活動	■新規出版、再版の働きかけ	実施	実施	・小学館「大佛次郎と猫」（大佛次郎記念館編）4月第2刷発行		
			□引用の発信	10回	3回	・命日や誕生日などの機会、テーマ展示の内容などからSNSで引用の発信を行いました。		
			■音声による鑑賞機会の提供	実施	実施	①動画上映 鎌倉の家 「おさらぎじろう展『ぼくの伴侶 猫と大佛次郎物語』より」（4/22－8/20） 神奈川近代文学館コーナー展示「没後50年大佛次郎展－戦後の仕事－」（@神奈川近代文学館エントランス（12/2-1/21）） ②動画上映 「大佛次郎と猫」制作：小宮山社（「大佛次郎と木村荘八」（12/16-4/14））		
		聞き取りアンケートの実施	■聞き取りアンケートの実施	実施	実施	来館者の声を事業や管理運営に反映することを目的に、3/7～16、来館者への聞き取りを実施しました。通常のアンケートと異なり、質問項目を設定せず、大きく「テーマ展示」「その他事業」「施設管理（快適度）」について、来館者と会話する形で自由な感想、ご意見をいただきました。テーマ展示に関しては、「大佛次郎の作品ごとにテーマを設定した展示がみたい」「大佛次郎は知らなかったが、今回のように猫関連の展示があればまた来たい」「展示が場所にとっても合っている」などの声をいただきました。。「その他事業」は、「ねこ写真展」開催中に、感想や要望などを聞き取りました。「記念館も大佛次郎も知らなかったが『ねこ写真展』が来館のきっかけとなった」「『猫』をきっかけに来館したが、2F展示もとてもよかった」などの声がありました。施設の清潔さや快適性については、好意的な声を多くいただきましたが、「温かい便座を設置してほしい」「撮影OKとNGをもっとわかりやすく表示してほしい」など要望がありました。		



評価項目			令和５年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
【使命３】幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する	文学に触れる機会の創出	大佛次郎賞受賞記念講演会	□実施回数	1回	1回	第49回大佛次郎賞受賞者　星野博美（ほしの　ひろみ）氏による講演会 【演題】「町工場から見た戦争の日常」 日時：6月3日（日）開演14時 会場：南公会堂	【成果】 ・鎌倉市鍋木清方記念美術館との連携により、大佛次郎の墓地である寿福寺、清方旧宅跡である鎌倉市鍋木清方記念美術館、大佛茶亭（大佛次郎旧宅跡）を両館の学芸員・研究員が現地で解説するツアーを実施し、その場の声やアンケートから満足度の高い事業となりました。また、当館会議室で行った大佛と鍋木の文章から感想画を書く日本画体験ワークショップは、鍋木清方記念美術館の学芸員が講師となり、文学館と美術館のコラボレーションの可能性を探るよい機会となりました。 ・8回目の開催となった「大佛次郎×ねこ写真展」は昨年を上回る5,256人の来場がありました。また新たな取組として、ミナトノアート実行委員会とのコラボレーションによる「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」を開催し、和室を活用した猫茶会、子どもの猫をテーマにした作品の展示、猫耳政策ワークショップなど、来館者が楽しめる工夫を行いました。 ・ビブリオバトルは小学生対象、中学生対象、デモビブリオバトル（アウトリーチ）を行い、好評を得ました。これまでの当館の取組が評価され、ビブリオバトル普及委員会 Bibliobattle of the Year 2023 の「特別賞」を受賞しました。 【課題】 ・令和５年度は没後50年の記念年であり、使命3に分類される事業が多い年となりました。今後は目的や効果を慎重に検証した上で、今後の実施を決定します。	【評価できる点】 ・コラボレーション企画として、鍋木清方記念美術館と連携のもと実施した現地解説ツアーやワークショップ、ミナトノアート実行委員会と連携して実施した「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」など新たな取り組みを行い、満足度の高い企画が実現したことを評価します。 ・実施して８年目となる「大佛次郎×ねこ写真展」は、同時期での館内での関連企画やメディアから取り上げられたことも後押しとなり、昨年を上回る来場者数に繋がりました。 ・これまで小・中高生を対象に実施してきたビブリオバトルの取組が評価され、任意団体であるビブリオバトル普及委員会からBibliobattle of the Year 2023 の「特別賞」を受賞しました。  【より一層の取組を期待する点】 ・今後の事業展開の検討にあたっては、既存の枠組みに捉われない切り口の事業を展開する等、引き続き新しい発想で企画・立案をしていただくことを期待します。 ・また次年度より開始するビブリオバトルの一般の部開催により、幅広い方へアプローチできる展開を期待します。 ・例年より多くの取組を実施した中で効果等の分析をし、次年度以降の取組に反映してください。
			□入場者数	160人	253人			
		文学ウォーキング	□実施回数	1回	4回	7/9、9/2 鍋木清方と大佛次郎のゆかりの地をめぐる鎌倉ガイドツアー 3/28、31 横浜シティガイド協会「大佛次郎の世界」		
			□参加者数	20人	69人			
		ビブリオバトル・シリーズ	■一般の部開催準備	実施	実施	令和6年4月6日「和装deビブリオバトル」計画		
			□中高生ビブリオバトル	1回	1回	11/3「中高生ビブリオバトル」実施　参加8名		
			□参加者数	6人	8人			
			□小学生ミニ・ビブリオバトル	1回	1回	12/2「ミニ・ビブリオバトル」（小学4年生～6年生）実施　参加 6人		
			□参加者数	6人	6人			
			■デモ・ビブリオバトル	実施	実施	6/27平楽中、10/27元街小、11/13北方小、12/19元街小表彰式		
		読み聞かせ・読書推進活動	■開催準備	実施	実施	読み聞かせ経験者へのヒアリング実施・実施検討		
		大佛次郎研究会公開発表会	■共催団体として広報や準備・運営に協力	実施	実施	5月27日大佛次郎研究会公開発表会 会場：神奈川近代文学館　来場153人		
	芸術文化、多様な性を学ぶ機会を活かした	「大佛次郎×ねこ写真展」	□開催回数	1回	1回	おさが次郎×ねこ写真展（1/10～4/14） 応募点数　343点　　来場者数　5,256人		
			■全作品の展示	実施	実施			
		たてものミニ・ミニ・トーク	■建築についてのミニ解説（再掲）	実施	実施	毎月第3土曜日14時から「たてものミニミニトーク」として実施		
		サロンコンサート	□開催回数	1回	1回	1/6　ひとり語り「麦」（大佛次郎「四十八人目の男」より）会場：和室		
		和室公開	□開催回数	2回	2回	①11/2～12/10　秋の和室公開 ②3/22～4/14　春の和室公開		
			■桜の春、紅葉の秋に公開	実施	実施			
		横浜山手西洋館との連携事業	□ハロウィンウォーク	1回	1回	10/29実施　3,093人入場		
			□山手芸術祭ユースギャラリー	1回	1回	2/17～25実施（北方小学校 児童作品展示） 会場：会議室		
		文字活字文化の魅力を伝える事業	□開催回数	1回	1回	「大人の感想画体験　日本画材を使って絵を描いてみよう」 日時：10/7　10時～ 会場：会議室　講師：小林美香（鍋木清方記念美術館学芸員）		
			□参加者数	10人	7人			
	若い世代に向けた文化体験イベントの開催	ビブリオバトル・シリーズ（再掲）	□中高生ビブリオバトル	1回	1回	11/3「中高生ビブリオバトル」実施　参加8名		
			□参加者数	6人	8人			
			□小学生ミニ・ビブリオバトル	1回	1回	12/2「ミニ・ビブリオバトル」（小学4年生～6年生）実施　参加 6人		
			□参加者数	6人	6人			
		横浜市芸術文化教育プラットフォーム	□実施校数	1校	1校	11月24日芹が谷小学校 語りと音楽 出演：ピアニスト伊藤慧　アナウンサー竹平晃子		
		アウトリーチプログラム	■開催準備	実施	実施	デモ・ビブリオバトル（アウトリーチ）		
		子どもアドベンチャー	□開催回数	1回	1回	8/17　「アナウンサー体験」 朗読：あまんきみこ「ちいちゃんのかげおくり」 講師：竹平晃子 10:30～12:00　1回目 14:00～15:30　2回目 参加：15名、応募105名		
	□参加者数		20人	15人				
	ミュージアム・ミッション	□実施回数	1回	1回	7/21～8/31「昔のふろく遊びコーナー」			
	4	展示に関連したイベント	□開催回数	3回	11回	チラシ記載の関連事業数		
	5	継続事業の工夫	■新たな工夫の実施	実施	実施	「大佛次郎×ねこ写真展2024」（1/10～4/14）の中で、ミナトノアート実行委員会との連携による「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」（3/16、17開催）。猫茶会や猫耳ワークショップの実施など、イベントを開催しました。		

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
【使命5】 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する	1	文学館、博物館、研究機関及び、研究者とのネットワーク	■大佛次郎研究会との協働	実施	実施	・資料貸出（神奈川近代文学館、神奈川近代美術館、菊池寛記念館、北九州市立美術館、世田谷区立中央図書館・中央図書館プラネタリウム・世田谷文学館） ・2025年（令和7年度）の野尻抱影生誕140年を視野に、旧神中（現希望ヶ丘高校）の元教諭との連絡など、今後を見据えた関係の継続を行った ・研究会とは日常的に連絡	【成果】 ・他館との連携において、大きなものとしては、神奈川近代文学館、鎌倉市鍋木清方記念美術館、山口蓬春記念館との連携があげられます。神奈川近代文学館では、没後50年連携事業として「大佛次郎展－戦後の仕事－（コーナー展示）」の開催、夏の「昭和の遊び」展での記念館所蔵資料を展示活用において、連携を行いました。 ・鍋木清方記念美術館とは、使命3で記載した、文学散歩、日本画ワークショップの連携の他、総合割引などを実施しました。また山口蓬春記念館とは、特別展「山口蓬春と藤田嗣治」内において「大佛次郎と藤田嗣治」の展示コーナーを設けました。なお、この連携をきっかけに令和6年度のテーマ展示において、両施設で同時期に「大佛次郎と山口蓬春」展開催を予定しています。 ・横浜都心部において開催された「ミナトノアート2023」内のプログラム「ミナトノネコ」では作家と猫との関わりについて、講演を行いました。また「ヨルノヨ2023アートプログラム「水の町プロムナード」内のトークイベント「獅子文六と大佛次郎の散歩した水町通りの歴史と文化」では、横浜開港資料館、神奈川近代文学館の職員とともに登壇し、トークを行いました。 ・大佛次郎記念館で令和4年度に寄贈を受けた、松野一夫の雑誌「宝石」の表紙原画、「苦楽」の挿絵原画を北九州市立美術館に貸出、展示活用されました。 ・街との連携では、新型コロナウイルス蔓延以降、参加を見合わせていた山手西洋館を巡る「横浜山手ハロウィンウォーク」に参加し、多くの来場がありました。  【課題】 ・令和5年度は没後50年記念とともに、横浜の街を舞台としたアートプログラム「ミナトノアート」「ヨルノヨ」のプログラムに参加することで、多彩なつながりをつくることができた一年となりました。この連携を生かすための取組を慎重に検討してまいります。	【評価できる点】 ・他館との連携を積極的に行い、山口蓬春記念館とは、特別展の展示コーナーへの連携をきっかけに令和6年度のテーマ展示の連携が決定し、「大佛次郎と山口蓬春」展開催に繋がったことを評価します。 ・アートプログラムとの連携により、新たな層へ大佛次郎記念館への興味を持つきっかけに繋がりました。 ・近隣施設等と継続した協力関係により、事業や広報、相互割引など安定した連携企画やサービスが実施されています。  【より一層の取組を期待する点】 ・コロナ禍以降数年ぶりに山手西洋館を巡る「横浜山手ハロウィンウォーク」に参加し、約3,000人の来館者に繋がりました。これをきっかけとしてこれまで興味が無かった世代等への更なる働きかけを検討することを期待します。 ・これまで連携した団体との関係を継続し、状況に合わせた活動や互いにメリットのある企画の検討を行うことを期待します。
			■これまでに関わった研究者との関係継続と発展	実施	実施			
			■全国の文学館、博物館や研究機関との相互調査協力、展示協力	実施	実施			
			■没後50年連携事業の実施	実施	実施			
	2	学校との連携ネットワーク	■ビブリオバトル・シリーズ（再掲）	実施	実施	・ミニビブリオバトル（小学生対象）の実施、中高生ビブリオバトルの実施に加え、近隣の中学校1校、小学校2校へアウトリーチしたビブリオバトルを実施しました。 ・芸術文化教育プラットフォームは芹が谷小学校にて実施しました		
			■芸術文化教育プラットフォーム（再掲）	実施	実施			
			■アウトリーチプログラムの開発（再掲）	実施	実施			
			■校外学習の誘致	実施	実施			
	3	近隣とのネットワーク	■近隣施設等との連携	実施	実施	・神奈川近代文学館、山手西洋館、猫の美術館、ギャラリー山手などの近隣施設と広報等相互に連携しました。 ・近隣施設をめぐるデジタルスタンプラリーに参加 ・元町・中華街駅、アメリカ山公園、アメリカ山保育園、ボンバドウル元町本店等、近隣商店にポスター掲示の協力を得ました。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2024」ご協賛 6社 ・中区ブックフェスタへの参加、NPO山手アーカイブスとの連携展示などで、区内施設や市民団体と連携しました。 ・コロナ禍以降、参加を見合わせていた横浜山手ハロウィンウォークに参加しました。	実施	実施
			■近隣商店街の連携	実施	実施			
			■中区内の施設や市民との連携	実施	実施			
	4	大佛次郎をゆかりとするネットワーク	■著作権継承者、資料所蔵者との良好な関係維持	実施	実施	・著作権継承者とは日常的に連絡をとり、関係者のご遺族をご紹介いただくなど、良好な関係を維持しています。 ・大佛次郎の著作は絶版となるものが徐々に増えており、当館受付でも「天皇の世紀」なども全巻は揃わない状況。再版等の働きかけを継続します。	実施	実施
			■出版関係者へ再版や新規出版の働きかけ	実施	実施			
	5	財団施設との連携	■没後50年連携事業の実施	実施	実施	・財団施設との連携は、横浜にぎわい座、横浜市民ギャラリー、市民ギャラリーあざみ野で実施しました。	実施	
	6	割引設定による協力関係	■神奈川近代文学館との相互割引を継続	実施	実施	・神奈川近代文学館との通年相互割引、鎌倉市鍋木清方記念美術館との期間限定相互割引を実施。	実施	
			■交通機関、福利厚生団体への割引協力	実施	実施	みなとぶらりチケット（市交通局）、みなとみらい線一日乗車券、1dayパス（京浜急行）、グルメきっぷ（東急電鉄、西武鉄道）他	実施	
	7	展示・イベントでの連携継続	■団体、企業、アーティストとの連携	実施	実施	ミナトノアート実行委員会、ヨルノヨ2023、横浜キネマ倶楽部、横浜シティガイド協会、カタリト和楽の芸人衆くかたりと>、ホテルニューグランド他	実施	
	8	市民ボランティアとの連携	■記念館ボランティアの継続	実施	実施	・イベント、調査や聞き取りに記念館ボランティアの協力を得ました。	実施	

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅱ 施設運営		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
【使命4】 市民に文化を中心とした活動の場を提供する	1	基本的な施設の提供内容	■施設利用受付は3か月前の1日から先着順 ■減免・割引は条例、規則、要綱に基づく	実施 実施	実施 実施	・条例、規則、利用要綱に基づき、適切に運営しました	【成果】 ・和室・会議室ともに目標利用率を上回り、指定管理第1期（2016年～）以降、利用料金収入がもっとも高くなった年となりました。句会、お茶会、朗読会、瞑想等の利用の他、全館を長期で利用するお茶関連の展示など、新規利用が入りました。 ・利用者が活動を紹介できるチラシラックを受付横に設置しました。 【課題】 ・現在、エクセルで作業している施設利用手続き（各種許可書の発行や領収書発行）について、迅速で正確な処理を行えるよう、システム導入を検討しています。	【評価できる点】 ・貸室の利用事例をブログで紹介し、ホームページのリニューアルに伴い、和室・会議室の空き状況も確認しやすくなるとなりました。句会、お茶会、朗読会、瞑想等の利用の他、全館を長期で利用するお茶関連の展示など、新規利用が入りました。 ・新規利用者が増え、指定管理第1期以降利用料金収入が最も高くなったことを高く評価します。  【更なる取組を期待する点】 ・利用者サービス向上の視点から、利用事例の紹介及びきめ細やかな対応の継続を含め、利用者の利便性改善の視点を持ち続けることを期待します。 ・利用者の施設利用手続きについても、利便性が向上できるようなシステム導入等の検討を期待します。
	2 受 付 の 運 営 体 制	観覧者への対応	□開館中の配置人数 ■人権の尊重に配慮し、ホスピタリティのある接客 ■観光案内	1名 実施 実施	1名 実施 実施	・開館中は常時1名を受付に配置しました。 ・人権の尊重、ホスピタリティのある接客を心がけました。 ・山手地区のマップを受付に備え、観光案内にも対応しました。 ・和室・会議室の下見や利用相談から当日まで丁寧に対応しました、撮影、作品展示、お茶会、落語会などにご利用いただきました。		
	3	利用促進・サービスの向上	■和室・会議室の空き状況を、ホームページに掲載 ■和室パッケージプラン実施準備 ■利用事例をブログ、SNSで発信 ■研究団体等の活動支援 ■観覧者、施設利用者アンケート ■利用者交流のための掲示板設置	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	・利用事例のブログでの紹介しました。（7/30、10/26、12/9） ・和室・会議室の空き状況を、ホームページに掲載し、いつでも確認できるようにしました。 ・会議室・和室の利用者との意見交換会の準備および日程調整を行いました。 ・会議室・和室利用者のためのチラシラックを設置しました		
	4	入館者数（観覧者数＋施設利用者数）目標値	□入館者数（観覧者数＋施設利用者数） □WEB来訪者数	25,000人 300,000件	22,384 286,655	達成率90% 達成率96%		
	5	貸出施設稼働率の目標値	□和室利用率 □会議室利用率	24% 33%	26% 42%	和室、会議室とも目標を上回り活発に利用されました。会議室は指定期間最終年（令和8年度）の目標を達成できました。		
2 組織的な施設運営 （様式11）	1	必要人材の配置と職能	□施設長（館長） □事務職員2名 □研究員2名、特任研究員、研究補助員 □カルチャースタッフ4～6名	配置 配置 配置 配置	配置 配置	・計画どおり人員を配置しました	【成果】 ・書籍や資料の取扱研修の開催など、職員・スタッフの集合研修を行い、スキルの向上を行いました。 ・月に1度、全体会議の場を設け、個人情報保護研修や会議での注意喚起を行い、個人情報事故を防ぐことができました。 【課題】 ・引き続き各種研修を実施していきます。	
	2	主要人材の能力担保	□接遇研修、人権研修、コンプライアンス研修、個人情報保護研修 □防災訓練、救急救命講習 ■受付業務研修、横浜や観光情報の研修 ■大佛次郎や建物の意匠、展示内容についての研修 □書籍、資料取扱い研修 ■全国文学館協議会、図書館や博物館の研修 ■文化庁や日本近代文学館の専門研修	1回/年 2回/年 通年 通年 1回/年 通年 通年	6回/年 2回/年 通年 通年 1回/年 通年 通年	個人情報保護・コンプライアンス、資料取り扱い・人権研修、インボイス研修、ノロウイルス対処 10月23日、1月22日（消防署立合い） 日常的に実施 2月26日実施 2月文化庁文化財保護研修(ZOOM)		
	1	「記念館を体験する」心に響く、五感で感じる展示・イベント	■見やすく、見た目も楽しめる展示 □和室公開時に薫香  □文字活字文化体験イベント（再掲）	実施 2回/年  1回/年	実施 2回/年  1回/年	・見やすく、見た目も楽しめる展示となるよう、ビジュアルを工夫しました。 ・和室公開時は、曜日ごとに日替わりの薫香を行い。お香に関する解説を掲示しました。 ・文字活字文化体験は、10月7日「大人の感想画体験」（講師：横浜市錦木清方記念美術館学芸員）を実施しました		
	2	記念館資源の活用	■閲覧室での、テーマ性のある書棚作り  □サロンでの季節感ある装飾 ■和室パッケージプラン（再掲） □記念館全体を使った回遊性のあるイベント	実施  4テーマ/年 準備 1回/年	実施  8テーマ/年 準備 1回/年	書棚特集コーナー R3.7月～R5.7/3「激流～渋沢栄一の若き日」 R5.7/4～R6.1/8「錦木清方が表紙を描いた雑誌『苦楽』」 2024/1/10～「激流～渋沢栄一の若き日」に戻る  不思議の国のアリス、夏仕様、七夕、ハロウィン、クリスマス、正月、節分・雛祭り、春  翌年度以降の検討を実施 木村荘八展＋猫写真展		
	3	大佛次郎と作品を後世に残す活動	■紙媒体、WEB、音声等で、積極的に大佛作品の発信  □謎解き・学習リーフレット・クイズ ■記念館の建物の外側への発信	実施  1回/年 通年	実施  1回/年 実施	・様々な媒体を通じて、作品の引用や刊行に関する情報などを発信しました。  2023/11/24 元町小2-2 街探検でクイズ実施 ブログでの建物クイズ実施		
	4	芸術文化振興財団のネットワークを生かす	■没後50年連携事業の実施	実施	実施	没後50年記念事業の実施		
	1	休館日の届け出		実施	実施	・各種申請や届け出は適切に行いました。		
	2	許認可及び届け出		実施	実施			
4 その他施設運営に関する事項	3	目的外使用の申請		実施	実施			
	4	財務状況の確認		実施	実施			



評価項目			令和５年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ 施設管理		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
【使命６】 持続可能性を高める施設運営を行う。(保守管理業務)	1	日常点検業務・定期点検業務	<input type="checkbox"/> 目視による日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検 <input type="checkbox"/> 空気環境測定	1回/日 1-6回/年 2回/年	1回/日 1-6回/年 2回/年	・日常点検業務・定期点検業務は記載のとおり実施 ・点検結果は所管課に報告しました。	<b>【成果】</b> ・日常の施設維持・資料保存は計画どおり行いました。 ・令和５年度は、設備不具合による小破修繕の多い年となり、修繕予算の執行率270%となりました。夏には２Fの展示ケースで、蛍光灯安定器の老化によるトラブル生じたため、予防的な措置として２F展示室および１F和室の蛍光灯からLEDへの更新しました。その他の設備トラブルにも早急に対応し、利用者の利便性を確保しました。 ・横浜市発注の工事により、分電盤が更新されました。 ・防災訓練は10月と1月の２回開催しました。１0月の訓練では消防設備管理会社立ち合いのもと、火災発生時の火災報知器の状態や防火戸の状態を実際に体験しました。1月の訓練では中消防署北方出張所立ち合いのもと、通報訓練、避難誘導訓練、救急救命（AED）訓練、水消火器による消火訓練を行いました。 <b>【課題】</b> 築40年以上経て劣化が進行しているため、引き続き横浜市と密に状況を共有します。	<b>【評価できる点】</b> ・1年を通じて、施設及び設備のきめ細やかな管理を行い、適切に業務を遂行できました。 ・経年劣化による設備等の不具合を速やかに共有し、修繕や点検等を適切に行いました。  <b>【より一層の取組を期待する点】</b> ・築40年以上経過しているため、引き続き修繕や点検等良好な施設の維持管理に努めてください。
	2	施設及び設備の維持保全及び修繕	■日常点検により、日頃より施設の不具合箇所を把握 ■予防的修繕にも積極的に取組み ■施設・設備の異常時には、利用者の安全確保を最優先に、適切に修繕等の対処 ■１件60万円以上（消費税及び特別消費税を除く）の工事や、市の事由に基づいて施設の改造を伴う工事については、横浜市と協議  ■長寿命化や大規模改修に向けた調査や工事に、積極的に協力	実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施	■主な小破修繕 男子トイレ小便器センター更新（2箇所） 女子トイレフラッシュバルブ更新（1か所） 1Fエントランスドアノブ破損修理 2F展示廊展示ケース安定期トラブルに伴うLEDへの更新（12灯） 2F展示室展示ケースLEDへの更新（2箇所2灯） 1F和室および会議室スポットLEDへの更新 排水管更新 事務室通用口オートロック錠の設置 ■建築相談 地下２F書庫壁面のひび 蛍光灯安定器老朽化のトラブル 排水管の不具合 給水管の不具合		
	3	所蔵品及び備品の管理	<input type="checkbox"/> 特別書庫、書庫、ギャラリー等の点検、記録、調整点検、記録、調整(再掲) <input type="checkbox"/> 休館日を利用した防塵作業（再掲） <input type="checkbox"/> 専門業者による 防塵防微処理（再掲） <input type="checkbox"/> 年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告	2回/日 1回/月 1回 1回	2回/日 1回/月 1回 1回	・所蔵品の適切な管理により良好な状態を保ちました。 ・物品確認を行い、物品管理簿を整え、市に報告しました。		
	1	清掃業務	<input type="checkbox"/> 日常清掃 <input type="checkbox"/> 定期清掃 ■貸出施設は、利用の前に清掃 ■ガイドラインに則りアルコール消毒	6回/週 4回/年 実施 実施	6回/週 4回/年 実施 ー	・日常清掃、定期清掃により清潔な施設を保ちました。 ・施設貸出前には、消毒を含む清掃を行いました。		
	2	環境維持	<input type="checkbox"/> 温湿度データの確認（再掲） ■観覧場所に、空気清浄機を設置	2回/日 実施	2回/日 ー	・温湿度管理や空気清浄機設置により、良好な環境を維持しました。		
	3	廃棄物処理及び環境への配慮	■快適性を確保しつつ節電にも積極的に取組み ■省エネルギーを意識した温度管理 ■チラシの必要部数を精査し、紙の消費量やゴミの排出量を削減	実施 実施 実施	実施 実施 実施	・省エネルギーを意識し、サーキュレーターを併用した温度管理を行いました。 ・書類のペーパーレス化を意識し、紙の消費・排出量を削減しました。		
	1	保安警備業務	■職員の施設巡回 ■職員不在時は、機械警備により施設への侵入や火災等の異常を察知し早急に対応	随時 実施	随時 実施	・開館中の巡回と夜間機械警備で安全を保ちました。 ・通用口（搬入口）にオートロック錠を設置し、日中の安全を高めました。		
	1	平常時の防災対策	■消防法に基づき防火管理者を選定、消防計画を作成し所轄の消防署に届け出  <input type="checkbox"/> 自衛組織を結成し、職員全員で防災訓練  ■防災マニュアルを事務所内の常時目に付く場所に設置 ■聴覚障がい者対応モデルのA E D（自動体外式除細動器）を受付前に設置し、防災訓練時に操作研修	実施  2回/年  実施  実施	実施  2回/年  実施  実施	・防火管理者の変更に伴い、消防計画を提出しました。（1/22） ・法定点検（1回／3年）を消防署に提出しました ・消防立ち合いによる消防訓練を実施しました 10月23日 自主訓練（記念館防災設備の実演と総合訓練） 1月22日 通報訓練、避難訓練、AED訓練、水消火器による消火 事務室内に設置 事務室内に設置		
	1	災害、事件・事故時の対応	■来館者の安全を第一に、直ちに必要な措置を講じる ■安全確保や通報等直ちに必要な措置を講じるとともに、所管課や財団事務局等関係者に緊急連絡	発生時に実施 発生時に実施	発生なし 発生なし	・災害を想定した訓練を実施（2回／年）		
	1	公園管理業務	■道路や歩行空間の通行に支障がないようにする ■専門知識を要すること及び管理区域外の公園部分の管理については、港の見える丘公園（環境創造局都心部公園担当）と連絡調整	実施 実施	実施 実施	・日常的な公園の案内の実施（公衆トイレや自動販売機、バス停等の案内。公園内の建物、季節の花等の案内） ・敷地内の樹木剪定による景観維持		
	2	感染症対策	■館内を清潔に保ち、ガイドラインに則った感染対策 ■館内にハンドソープとアルコール消毒液を設置 ■次亜塩素酸ナトリウム等ノロウィルス対策キットを常備	実施 実施 実施	ー 実施 実施	・新型コロナウイルスの5類への移行後も消毒液設置、受付アクリル板の設置、スタッフのマスク着用は継続しました。 ・ノロウィルス対応キットを常備し、1回／年 対応研修を実施しました。		

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅳ 収支		指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造（様式20）	1	利用料金の確保	■観覧料確保のため来客誘致	実施	実施	・利用料金収入、事業収入、ショップ収入が目標を大きく上回りました。 ・事業収入は特に展示の収入が昨年度に比較して大きく伸びました。 ・利用料金収入は指定管理制度導入後、最も高い実績となりました ・ショップは、展示にあわせて関連性のありそうな商品を揃えるなど、仕入れにも工夫を行いました。 ・記念館前のスペースを活用し横断幕で情報発信を行い、観覧料収入を確保しました。	【成果】 ・利用料金収入、事業収入、ショップ収入が昨年度と比較して伸びており、利用料金収入は、指定管理者制度導入後、最高額となりました。また事業収入は主に展示の収入であり、昨年度に比較して大きく伸びました。没後50年の記念年であり、メディア等で取り上げていただいた効果が考えられます。令和5年度決算では、利用料金、事業収入、ショップ収入ともに、新型コロナウイルス感染症蔓延前の水準に回復しています。 ・収入は記念年の効果として留まらず、引き続き努力します。 ・支出については、設備不具合による修繕および予防的な修繕に注力したことから、修繕費の支出が予算を大きく上回りました。 ・人件費は、出版と没後50年記念事業が重なり、書籍刊行準備を行った年度前半は、例年に比較して職員の超過勤務が多くなりました。 ・光熱水料費が予測よりも抑えられたこと、また収入が大きく伸びたことから、収支は約90万円のプラスとなりました。 【課題】 ・収入は記念年の一過性の効果に留まらず、獲得努力を行います。 ・物価高騰傾向は、今後も続くことが予測されるため、引き続き執行状況の推移を注視する必要があります。	【評価できる点】 ・利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症蔓延前の水準に回復し、指定管理者制度導入後最高額となったことを大変評価します。 ・設備の不具合や経年劣化による予防のため、小破修繕が多くなった1年となり、新刊本の発行準備のため人件費が予算を上回ったにも関わらず、光熱水費の削減努力や収入の増加により90万の黒字決算となり良好な収支バランスを達成できました。  【より一層の取組を期待する点】 ・収入増を記念年の一過性のものとしないう、継続的な収入増加に向けた取り組みに期待します。 ・今後も計画的な予算配分や効率的な運営努力により、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
	2	自主事業収入の確保	■大佛次郎賞受賞記念講演会等有料イベントの実施	実施	実施			
			■スペースの活用	実施	実施			
			■ショップ事業、刊行物販売	実施	実施			
			■原版使用促進	実施	実施			
			■助成金、補助金、協賛金、寄附金の獲得	申請	協賛金・寄附金の獲得			
	1	事業について	■費用対効果を常に意識しながら、事業の組み立てや経費執行	実施	実施			
2	発注や事務について	■見積もりの比較を行う	実施	実施	財団の経理規程に基づき、適切に実施しました			
2 経費削減等効率的運営の努力（様式20）	3	施設・設備管理について	■修繕は早期に対処	実施	実施	・コロナからの回復が進み、入館者数・利用率の上昇のためか、突発の故障に対応する修繕が複数発生しました。 ・展示ケース内の蛍光灯安定器のトラブルは、安定器の老朽化によるものと思われ、予防修繕として、2F展示ケースの蛍光灯および1F和室の蛍光灯を全てLEDに更新しました		
			■光熱水費節減とペーパーレス化推進（再掲）	実施	実施			
	4	人件費	■メール、サーバでの情報共有を密にすることで超過勤務を抑制	実施	実施	・出版と没後50年記念事業が重なり、書籍刊行準備を行った年度前半は、例年に比較して職員の超過勤務が多くなりました。 ・好調だった収入の状況と特に光熱水費の経過などを見ながら、に執行管理を行い、収支をバランスさせました。		
	5	収支均衡への取組	■事業別・科目別での執行管理	実施	実施			
	Ⅴ 各種計画書・報告書の作成及び業務評価		業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価
	1	日報、月報の作成・管理	■業務日報の作成	実施	実施	計画どおりに実施しました	【成果】 計画どおり実施しました 【課題】 特になし	
			■管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施	実施			
	2	事業計画書・事業報告書の作成・管理	■事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施			
			■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施			
3	業務評価の実施	■自己評価	実施	実施				
Ⅵ その他		選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応（様式23）	1	個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応	実施	実施	計画どおり実施しました	【成果】 計画どおり実施しました 【課題】 特になし	
	2	情報公開についての取組	■当財団の定める「情報公開規程」等に基づき適正に対応	実施	実施			
			■事業計画・報告はHPで公開、管理運営の改善点をWEB公開	実施	実施			
	3	人権尊重についての取組	□人権研修	1回/年	1回/年	2月26日実施		
	4	環境への配慮に関する取組	■省エネルギー・節電（再掲）	実施	実施	記載のとおり実施しました		
			■チラシの適正数量（再掲）	実施	実施			
			■ごみの排出量削減（再掲）	実施	実施			
	5	障害者差別解消	■字幕付き映像や音声資料の提供、職員による展示内容の説明	実施	実施			
	6	男女共同参画	■貸出用車椅子や段差解消スロープの備え付け	実施	実施			
	7	市内中小企業優先発注	■「横浜市中小企業振興基本条例」を踏まえ、特別な専門性が必要な契約等を除き、可能な限り市内中小企業への発注	実施	実施			
2 その他	1	保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施	・突発の修繕対応、市建築局への建築相談等、相互に密に連絡調整を行いました ・市発注の分電盤更新工事実施にあたっては、所管局、公社、業者と密に情報共有を行い、円滑に更新工事が終了しました	【成果】 計画どおり実施しました 【課題】 特になし	
	2	関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じた関係法令を順守	実施	実施			
	3	市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有  ■車両による搬入搬出や建物外に影響する管理業務等を行う際には、公園管理者と調整し、十分な近隣対策	実施	実施			



評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>・没後50年を目指し、数年を掛けて取り組んできた「南方ノート・戦後日記」を刊行し、メディア等でも話題としていただくことができました。約30年ぶりとなる未刊行資料の出版は、大佛次郎という作家の現代にも通じる視点を伝え、その魅力に光をあて、広く発信することになりました。書籍の刊行後は、本書の内容を考察する「特別展」を開催し、多くの来場者を得ました。また令和6年度発行予定の「おさらぎ選書」においても本書をテーマし、刊行のみにとどめず、さらに考察を深めていきます。</p> <p>・テーマ展Ⅰ・Ⅱおよび特別展は入館人数こそ目標に届きませんでしたが、展示の入館料（事業収入）は目標を大きく上回ることができました。</p> <p>・市内外の施設や団体と連携して通年で実施した没後50年記念事業は、当館単独では実現できない多彩な事業展開により、多くの市民が作家・作品に触れる機会をつくることにつながりました。また、この事業を通じて広いネットワークをつくることができました。</p> <p>・管理面では、設備不具合による修繕対応を多く行った年となりました。所管局と不具合を共有し、早期に対応することで、来館者の利便性・安全性を確保しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・没後50年で得た成果を生かし、今後の中期的な事業計画を検討します。</p> <p>・長期に続くことが予測される物価高騰影響を注視し、執行管理を行っていきます。</p> <p>・施設・設備への不具合が多く発生したため、今後の老朽化への対応を所管局と連携して実施していきます</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・没後50年に向けて準備してきた記念事業や新刊本の刊行など、これまで積み上げてきた関係を紡ぎながら新たな関係性も築き、精力的に活動した1年でした。</p> <p>中でも約30年ぶりとなる新刊本「南方ノート・戦後日記」の刊行は、「大佛次郎研究にとって重要であることは言うに及ばず、ノートを通じて浮かび上がる軍政下の南方の日常や敗戦直後の日本、被占領下の暮らしや創作の記録など東南アジア史研究、戦後文壇史、文化史研究にとっても非常に高い価値を有し、読んでまた興味深い史料」との出版社の講評にあるとおり、各種メディアで取り上げられ、大佛次郎という人物の功績や書物を発信したのみならず、新たな層へ文学の多様な魅力に触れる機会を拡大するという大きな成果に繋がりました。</p> <p>・市内外の施設や団体と連携して実施した没後50年記念事業では、新たな連携先も開拓し、ホテルや文化施設など様々な場所において、内容も展示、講演会、映画上映、ゆかりの場所へのツアー、落語会等多彩な方法で、大佛次郎の業績を広く普及するとともに、幅広い市民等へ文学に触れる機会を提供することができた点を評価します。</p> <p>・所蔵資料のデジタルアーカイブ化は、令和6年度の公開にむけて分類の整理やデータの精査確認までを順調に行えました。</p> <p>・HPのリニューアルにより見やすさ・利用しやすさが向上し、貸室の空き状況や活用例を発信するなどをした結果、和室・会議室ともに利用率が目標を上回り、指定管理運営以降最も高い利用収入を得ることができました。</p> <p>・施設運営・管理においては、持続可能な施設運営に取り組んだ点を評価します。経年劣化による設備等の不具合を防ぐべく定期的な点検等を適宜実施し、突発的な修繕についても適切に対応し、安定的な施設運営を行いました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・使命3（幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する）の来館者（参加者）アンケートでは、達成指標が満足度平均4.5以上のところ、4.1と下回っています。次年度に向けて目標未達成の要因分析及び参加者の満足度が向上する企画内容を検討してください。企画展等の事業について、幅広い利用者が楽しめるよう多彩なアイデアを取り入れた事業を引き続き実施してください。</p> <p>・撮影利用件数がR4年度の23件に対しR5年度が9件と目標の年間10件を下回っています。施設の活用方法が促進されるよう利用者への情報発信を期待します。</p> <p>・令和6年度のデジタルアーカイブ公開に向け、展示での活用等を視野に入れながら、ホームページでの検索・閲覧ができるよう進めてください。</p> <p>・より多くの市民へ、多様な切り口や手段で大佛次郎という作家の魅力を発信し、後世に残していくという施設の使命に資する今後の発展的な継続に向けた取組に期待します。</p>